【地方自治体との連携】 福島の魅力及び復興状況に係る正確な情報発信（米国）

在米国大使館

開催日： 令和5年1月19日（木）夕刻
場　所： 在米国大使公邸
主催（共催）： 在米日本大使館及び福島県

【概要】

- 東日本大震災復興に関わった当時の米国政府関係者のほか、国務省、農務省、農業団体関係者、外交団、シェフやジャーナリスト、流通など約140名が出席し、福島県との共催レセプション「福島の食と農を語る夕べ」を開催した。
- 福島県内堀知事が福島の復興状況についてセミナーを実施後、レセプションを行った。多くの参加者から、福島県知事のセミナーについて、福島県の現状がよく理解できたとの声が聞かれた。
- レセプションでは、福島県産和牛を使用したローストビーフ、福島県産米を使用した寿司、日本酒が振る舞われ、福島県の食品はなじみがなかったが、実際に食べることができて、福島の魅力を体験するとともに、通常の食品と何も変わらず、とても身近であるものが理解できたなどの声も聞かれた。
- また、当地の食品商社や日系小売りストアとも連携し、既に米国で流通され購入可能である福島の食品メーカーが製造する喜多方ラーメンもお土産として提供された。
- 当地主要スペイン語紙「El Tempo Latino紙」、時事通信英語版、当地農業専門メディア「Hagstrom Report」において、好意的に報道されたほか、招待客のシェフ、ジャーナリスト、インフルエンサーから積極的にレセプションの模様が発信された。